

スクウェア21[®]

Human Connections

一般社団法人
全国経営者団体連合会
The Organizer of
Human Renaissance
Vol. 277

巻頭
インタビュー

小田 全宏

株式会社ルネッサンスユニバーシティ
代表取締役

「隅を照らす」を信条として
「陽転思考」をベースに、
松下幸之助の考え方を提唱。
「人間教育」一筋に研究実践し、
全国的に活動中



「二隅を照らす」を信条として

「陽転思考」をベースに、松下幸之助の考え方を提唱。
「人間教育」一筋に研究・実践し、全国的に活動中



株式会社ルネッサンス・ユニバーシティ
代表取締役

おだ ぜん こう
小田 全宏 さん

【プロフィール】

1958年、彦根市生まれ。株式会社ルネッサンス・ユニバーシティ代表取締役。東京大学法学部を卒業後、(財)松下政経塾に入塾。松下幸之助翁指導のもと、一貫して人間教育を研究。1991年、株式会社ルネッサンス・ユニバーシティを設立し、以来多くの企業で「陽転思考」を中心とした講演と人材教育実践活動を行う。2005年に始めた「アクティブ・ブレイン・セミナー」も好評を博している。1996年には、リンカーン・フォーラムを設立し、全国で立候補者による「公開討論会」を実現させ、現在その回数は2000回以上(2011年10月)にのぼる。また、京セラの稲盛和夫名誉会長を最高顧問に迎え、NPO法人「日本政策フロンティア」を設立し理事長を務める傍ら、NPO法人「富士山を世界遺産にする国民会議」運営委員長を兼務。NPO法人国際武道人育英会会長、NPO法人師範塾理事、NPO法人柔道教育ソリダリティ理事、リンカーン・フォーラム創始者、アクティブ・ブレイン協会会長。「陽転思考」「日本人の神髄」等著書多数。



今

回の巻頭対談は、日本全国で「陽転思考」を主軸に人材育成セミナーを開催され、「人間教育」一筋に研究・実践を行って来られた、株式会社ルネッサンス・ユニバーシティの代表取締役・小田全宏氏をお迎えした。

セミナー会場で披露する、その記憶術には毎回、驚嘆の声が上がり、さらには夢の叶え方を始めとする能力開発、人材育成などにも数多くの実績があり、今回、平成立志塾の講師としてもご登壇予定。

幼少時代の夢はフルート奏者

谷口 今回の巻頭対談は、株式会社ルネッサンス・ユニバーシティ、代表取締役、小田全宏氏に、これまでのご自身の生き方や考え方、信条などをおうかがいしていきます。最初に小田さんの幼少のころのことを教えていただけますか？

小田 私が生まれたのは、滋賀県の彦根市で、サラリーマンの父、音楽と数学の教師の母のもとで育ちました。音楽の好きな母の影響で、私も小さい頃からピアノを習っており、小学校4年生のときにフルートの神様と呼ばれるマルセル・モイーズの「ハンガリー田園幻想曲」を聴きまして大変感動し、フルーティストになろうと思っていました。

谷口 子どものころからクラシック音楽がお好きだったのですね。

小田 ええ、そのころ「フルートにかける夢」という作文を書いたのですが、その作文が総理大臣賞を取りまして、当時の佐藤栄作元首相から賞状をいただいた経験もありました。

谷口 それは素晴らしいですね。では、当時はプラスチックで演奏していたのですか？

小田 ええ。実は高校ではあまり成績が良くなく、その当時はフルーティストになろうと思っていました。しかし私がフルートを習っていた大阪の音大の先生に、「先生の音大時代のお友達はフルーティストになっていくのですか？」と尋ねたところ、「一人は風呂屋の番台、もう一人は実家の八百屋さんを継いでいる」という答えだったのです。

谷口 そうなのですか、音大を出てもプロにはなっていないのですね。
小田 はい。それを聞いて驚いて

いたら、「プロになるには実力と運とお金とコネがいる」と言われまして、自分には実力も何もなく、どう考えてもやはり無理なのではと思いきらめたのです。そして、高校一年のときに、今、私が皆さんにお伝えしている能力開発、脳の開発の一端を知り、成績が良くなっていったのです。

「人間とは何か」

谷口 現在の能力開発の原型は高校生のころに考えられたのですか？

小田 はい。それで「人間とは何か」を研究しようと考え、大学で哲学の勉強をしようと思ひ、東京大学の哲学科に行った高校の先輩に相談をしました。「僕も哲学科に行きたい。哲学を勉強したい」と。そうしましたら、「哲学なんてやったら反対に人間のことをわからなくなるからやめたほうがいい。法学部がいいよ。つぶしがきくから」と言われまして、素直に法学部に進学したのです。

谷口 法学部へ行かれても、「人間とは何か」を追求されていたのですか？

小田 そうですね、人間とは何かを研究したい、哲学を学びたいという思いがありましたから。ですから、大学でも哲学や心理学などの科目を取り、「人間とは何か」の研究をずいぶんしました。そして、大学4年生のときに、松下幸之助さんが塾



〔インタビュー〕
一般社団法人
全国経営者団体連合会理事長
谷口 智治

を開いているということはある教育者の方からうかがい、そのとき初めて松下幸之助さんという素晴らしい方を知ることになったのです。
谷口 それが松下政経塾へ入られるきっかけなのですね。

小田 「21世紀を引っ張るリーダーを育てたい」というお考えでした。松下さんの生き方は机上の空論ではなく、経営の現実の流れの中で、「人間とは何か」を深く考えている方だと思ひ、ぜひ学んでみたいくなり松下政経塾に進みました。

谷口 何期生になるのですか？

小田 私は4期生です。ただ私が入った当時は、誰一人政治家にはなっていないでしたね。私はもともと学校の先生になろうと思っていましたから。実際、松下さんにお会いしたときに感じたことは、人間のオラといえますか、すごい人だなと思ひましたね。松下さんは、「政経塾を昭和の松下村塾にしたい」とおっしゃっていました。しかし、「こ



人間教育の研究・実践

谷口 大学卒業後、政経塾に入られたのですか。

小田 そうです。当時の政経塾は自学自習という考え方で特にカリキュラムがあつたわけではありませんでした。あれから、二十数年経ちますが、政経塾出身の議員も多く、それこそ、総理まで輩出しましたから。そういった意味ではある種、政経塾は成功したのではないかと思います。

谷口 そうですね。野田総理は1期生と聞いています。

小田 そのころには私は人間教育をやっていたかと思っていましたので、政経塾に入って2年目にセミナーや講演会などを講習、トレーニングを学びながら、「人間の可能性を広げていくにはどうしたらいいのだろうか」と考え、研修の勉強や基盤としてあつたのは、松下幸之助さんの考え方なんです。松下さんは全く恵まれた状況ではなかったにもかかわらず、しかし、あれだけの成功を成すには彼が正しい人間観を持っていたからだと思えます。それを一番勉強させてもらいました。そのことを人に伝えていこうと思ったのは27歳のときですね。松下さんの考えは幅も広く深いのでなかなか難しいですが、私が一貫してお伝えしてきたのは「陽転思考」という考え方がベースになっています。

谷口 それは本当に貴重なご経験をされましたね。

小田 そのころは塾長もまだお元気でしたので、2カ月に1度は来られて、いろいろなことを教えていただきました。今から思えば、本当に貴重な財産だと思います。

「陽転思考」

谷口 「陽」に転じていくという考え方ですね。詳しく教えてください。

小田 「陽転思考」の「陽」は実は易学から来ているのです。もともと太極、宇宙には陰と陽がありまして、それがずっと変化する中で森羅万象ができてくる。陰陽はもともと中国で作られ、最終的に孔子が体系化したと言われています。後に大きな表をライプニッツが見て、二進法のコンピュータの原理と易学が全く一緒だということで大変驚いたという話がありますが、陽はプラス発想、ポジティブシンキングとかいい方はいろいろあってもいいのですが、陰は誰でも持っています。マイナスものをすーっと陽転させていくという考え方です。

谷口 マイナスばかりをみつめるのではなく……

小田 はい、裏に返すと陽に転じるといふことは、裏は陰で、陰がベースにあり、「陽転思考」とは物事を太陽のように明るく転じて見たいかこうという考え方です。この世のあらゆる物事に対し、良いことも悪いこともすべて含めてありのままに受け止め、そこからさまざまな可能性を拓いていこうというものです。

谷口 誰にでも言えないようなことは少なからずありますからね。



小田 その通りですね。自分の意志で全力を尽くすことはできたとしても、その結果は必ずしも自分の思い通りになるかどうかはわかりません。つまり、結果は人間の自由にはならないのです。ですから、出てきた結果をすべて素直に、あるがままに受け止めることができたときに、なにもものにもとらわれない絶対の自由が獲得できるということが、真の「陽転思考」の極意なのです。

谷口 素晴らしい教えですね。

小田 松下さんは常に深く考えて、呻吟しながら生きておられると感じました。あれだけの方がそうであれば、私たち凡人がもっと悩んでも当然のことだろうなと思えます。ですから、「陽転思考」も決して人生から暗い部分は切り捨てましょうということではなく、それも含めて人生なのです。その上で「陽」に変えていくと、その一見したらマイナスや自分のハズレだと思えるものが「宝物」に見えてくるという可能性を松下さんに教えていただき、そのことを



私のひとつのキーワードにしています。
谷口 おっしゃる通りですね。とてもよく理解できます。
小田 人にはそれぞれ与えられてくるマイナスなこともあります。そのことについてはそれを静かにきちつと受け止められたら、それは光となって変わっていくと思います。それを伝えていこうと考えます。それを伝えることが、27歳のときに人間教育のプログラムを構築し仕事として始めたのです。人間には可能性があります。多くの方々とトレーニングしてきますと、変化していく姿を見ることができるので、教学同時といいますが、教えることも学ぶことも一緒に起きてきています。私自身一生の仕事にしようと思いましたが。

さまざまな活動の中で

谷口 そのほかにもさまざまな活動をされていますね。

小田 ええ、多くのNPOをやらせていただいております。今も、富士山を世界遺産にしようという活動をしていきます。実は1999年に世界遺産にしようという運動がありましたが、世界自然遺産の基準に合わず、だめになってしまったことがあります。ですから、失敗すると言われましたが、富士山は日本人にとって、心のふるさとであると、信仰の山であり特別なものですよね。ですからそれは文化だということ、世界文化遺産にすることを目的として活動しています。中曽根元総理に会長になっていただき、さまざまな政界財界の方にもご協力いただき進めています。日本が元氣になっていくためのシンボルになってくれればいいなと思っています。

谷口 それからフルートの演奏も行っていらつしやいますよね。

小田 6年くらい前に引越越しをしまして、2階のリビングにミニサロンを作ったのでコンサートをよく開いています。小さいときの夢が叶いました。今年の2月24日に東京のサントリーホールの大ホールで交響組曲「大和」初演コンサートを行いました。2000人のホールが満員になるほど多くの方々にきていただき、本当に素晴らしいコンサートとなりました。第一部ではフル

ートを吹き、ピアニストの平野浩由さん、フルーティストの大塚茜さんが出演してくださり、第二部で指揮もいたしました。それ以来、全国で講演&コンサートを繰り返しています。

谷口 ぜひ、当会の塾でもお願いします(笑)。

小田 先般、ワタミの渡邊美樹会長が郁文館という学校の校歌を新しく作るといった話をうかがいました。作曲者を有名な方にしようかと悩んでおられたのですが、立候補しましたら、OKしてくださりました。

平成立志塾への登壇

谷口 それは名誉なお話ですね。最後にこれから登壇していただく平成立志塾への豊富なお話しいただけますか。

小田 今の時代、日本人を見ていますと元氣が喪失していますよね。しかし、私は日本人の中にあるDNAには、大変素晴らしいものがあると思っています。それを私たちがもう一回自分たちの中ではつきりと見つめ志を立てていけば、日本の国が衰亡していくことはないと思います。私のまわりでも若い30代の経営者、政治家の方々も多く、日本の国を真剣に考えています。私は立志塾の中で先人達の智慧をできるだけ私がお



かる範囲で皆様にお伝えしていきたいと思えます。そのポイントは松下幸之助さんや中村天風さんたちの言葉を聞いていただくと、そこからそれぞれ塾生の皆様が、自分のこととして、「彼らの言葉は自分のためにある」と自分の人生の中に取り込んでいたとき、次の一歩を踏み出していくときの糧にしてほしいと強く思います。自分の行動としてエネルギーに変えていただきたいです。そして、皆様方との素晴らしい出会いの中から素晴らしいものを生み出していくことができると思います。さらには塾の中だけではなく、もっと大きな広がりを持った活動を展開し、引いては日本を良くしていく、私は「一隅を照らす」という言葉が好きなのですが、皆様方にそういう存在になっていただけたらうれしいです。

谷口 本日は有意義なお話をありがとうございました。